

適用表と使用上の注意【最新版】

ジベレリン協和錠剤

平成28年11月16日改訂

協和発酵バイオ株式会社

【ジベレリン協和錠剤】

最新の適用表：平成28年11月16日改訂

適用表【ジベレリン協和錠剤】

| 作物名 | 使用目的 | 使用濃度 | 使用液量 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 使用方法 | ジベレリンを含む農薬の総使用回数 |
|--|----------------|--|---------------------------------|--|--------------------------------|---|----------------------------------|
| ぶどう (ヒロット・シートレスを除く2倍体米国系品種) [無核栽培] | 無種子化 果粒肥大促進 | 第1回目 ジベレリン 100ppm 第2回目 ジベレリン 75~100ppm | 果房散布 の場合は 30~100 L/10a | 満開予定日約14日前 (第1回目)及び 満開約10日後 (第2回目) | 2回、 但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内 | 第1回目：花房浸漬 第2回目：果房浸漬 又は果房散布 | 2回、 但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内 |
| ぶどう (ヒロット・シートレス) | 果粒肥大促進 | ジベレリン 100ppm | — | 着粒後 | 1回、 但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内 | 果房浸漬 | 1回、 但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内 |
| ぶどう (テラウェア) [無核栽培] | 無種子化 果粒肥大促進 | 第1回目 ジベレリン 100ppm 第2回目 ジベレリン 75~100ppm | 果房散布 の場合は 30~100 L/10a | 満開予定日約14日前 (第1回目)及び 満開約10日後 (第2回目) 満開予定日18~ 14日前(第1回目) 及び満開約10日後 (第2回目) | 2回、 但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内 | 第1回目：花房浸漬 第2回目：果房浸漬 又は果房散布 第1回目：花房浸漬 (ホルクロルフェニユロン1~5ppm液に加用) 第2回目：果房浸漬 又は果房散布 | 2回、 但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内 |
| ぶどう (キャンベルアーリーを除く2倍体米国系品種) [有核栽培] | 果粒肥大促進 | ジベレリン 50ppm | — | 満開10~15日後 | 1回、 但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内 | 果房浸漬 | 1回、 但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内 |
| ぶどう (キャンベルアーリー) [有核栽培] | 果房伸長促進 | ジベレリン3~5ppm | 30~100 L/10a | 満開予定日 約20~30日前 (展葉3~5枚時) | 1回 | 花房散布 | 2回以内、 但し降雨等により再処理を行う場合は合計3回以内 |
| ぶどう (2倍体欧州系品種) [無核栽培] | 無種子化 果粒肥大促進 | 第1回目 ジベレリン 25ppm 第2回目 ジベレリン 25ppm | — | 満開時~満開3日後 (第1回目)及び 満開10~15日後 (第2回目) | 2回、 但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内 | 第1回目：花房浸漬 第2回目：果房浸漬 | 3回以内、 但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内 |
| | | ジベレリン 25ppm | | 満開3~5日後 (落花期) | 1回、 但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内 | 花房浸漬(ホルクロルフェニユロン10ppm液に加用) | |
| | 果房伸長促進 | ジベレリン 3~5ppm | 30~100 L/10a | 展葉 3~5枚時 | 1回 | 花房散布 | |
| ぶどう (ヒロハンブルグを除く2倍体欧州系品種) [有核栽培] | 果粒肥大促進 | ジベレリン 25ppm | — | 満開10~20日後 | 1回、 但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内 | 果房浸漬 | 1回、 但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内 |
| ぶどう (ヒロハンブルグ) [有核栽培] | | ジベレリン 50~100ppm | 果房散布 の場合は 70~80 L/10a | 満開10~15日後 | | 果房浸漬又は果房散布 | |

【ジベレリン協和錠剤】

| 作物名 | 使用目的 | 使用濃度 | 使用液量 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 使用方法 | ジベレリンを含む農薬の総使用回数 |
|---|----------------|--|---------------------------------|--|------------------------------------|---|--------------------------------------|
| ぶどう (キングデラ、 ハニーシードレス、BK シードレスを除く 3倍体品種) | 着粒安定 果粒肥大促進 | 第1回目 ジベレリン 25～50ppm 第2回目 ジベレリン 25～50ppm | — | 満開時～満開3日後 (第1回目)及び 満開10～15日後 (第2回目) | 2回、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計4回以内 | 第1回目：花房浸漬 第2回目：果房浸漬 | 3回以内、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計5回以内 |
| | 果房伸長促進 | ジベレリン3～5ppm | 30～100 L/10a | 展葉 3～5枚時 | 1回 | 花房散布 | |
| ぶどう (キングデラ) | 着粒安定 | 第1回目 ジベレリン 50ppm 第2回目 ジベレリン 50～100ppm | 果房散布 の場合は 50～100 L/10a | 満開時～満開3日後 (第1回目)及び 満開10～15日後 (第2回目) | 2回 | 第1回目：花房浸漬 第2回目：果房浸漬 又は果房散布 | 2回 |
| ぶどう (ハニーシードレス) | 果粒肥大促進 | ジベレリン 100ppm | — | 満開3～6日後 | 1回、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計2回以内 | 花房又は果房浸漬 | 1回、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計2回以内 |
| ぶどう (BK シードレス) | 着粒安定 | 第1回目 ジベレリン 25～50ppm 第2回目 ジベレリン 25～50ppm | — | 満開時～満開3日後 (第1回目)及び 満開10～15日後 (第2回目) | 2回、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計4回以内 | 第1回目：花房浸漬 第2回目：果房浸漬 | 2回以内、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計4回以内 |
| | 果粒肥大促進 | ジベレリン 100ppm | | 満開3～6日後 | 1回、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計2回以内 | 花房又は果房浸漬 | |
| ぶどう (サニールージュを除く 巨峰系 4倍体品種) [無核栽培] | 無種子化 | 第1回目 ジベレリン 12.5～25ppm 第2回目 ジベレリン25ppm | — | 満開時～満開3日後 (第1回目)及び 満開10～15日後 (第2回目) | 2回、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計4回以内 | 第1回目：花房浸漬 第2回目：果房浸漬 | 3回以内、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計5回以内 |
| | 果粒肥大促進 | ジベレリン25ppm | | 満開3～5日後 (落花期) | 1回、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計2回以内 | 花房浸漬 (ホルクロルフエニユロン 10ppm液に加用) | |
| | 無種子化 | ジベレリン 12.5～25ppm | | 満開時～満開3日後 | 1回、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計2回以内 | 花房浸漬 (満開10～15日後に ホルクロルフエニユロン による果粒肥大促進 処理を行うこと) | |
| | 果房伸長促進 | ジベレリン3～5ppm | | 30～100 L/10a | 展葉3～5枚時 | 1回 | |

【ジベレリン協和錠剤】

| 作物名 | 使用目的 | 使用濃度 | 使用液量 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 使用方法 | ジベレリンを含む農薬の総使用回数 |
|--|------------------|--|---|--|--|--------------------------------------|--------------------------------------|
| ぶどう (サニールジュ) [無核栽培] | 無種子化 果粒肥大促進 | 第1回目 ジベレリン 12.5~25ppm 第2回目 ジベレリン 25ppm | - | 満開時~満開3日後 (第1回目)及び 満開10~15日後 (第2回目) | 2回、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計4回以内 | 第1回目:花房浸漬 第2回目:果房浸漬 | 3回以内、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計5回以内 |
| | | ジベレリン 25ppm | | 満開3~5日後 (落花期) | 1回、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計2回以内 | 花房浸漬 (ホルクロールフェニユロン 10ppm液に加用) | |
| | 無種子化 | ジベレリン 12.5~25ppm | 満開時~満開3日後 | 合計2回以内 | 花房浸漬 (満開10~15日後に ホルクロールフェニユロン による果粒肥大促進 処理を行うこと) | | |
| | 果房伸長促進 | ジベレリン3~5ppm | 30~100 L/10a | 展葉3~5枚時 | 1回 | 花房散布 | |
| | 着粒密度低減 果粒肥大促進 | 第1回目 ジベレリン 25ppm 第2回目 ジベレリン 25ppm | 満開予定日 14~20日前(第1回目) 及び満開10~15日後 (第2回目) | 2回、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計4回以内 | 第1回目:花房浸漬 (ホルクロールフェニユロン 3ppm液に加用) 第2回目:果房浸漬 | | |
| ぶどう (巨峰、ルビーロマン、 ハニービナス) [有核栽培] | 果粒肥大促進 | ジベレリン 25ppm | - | 満開10~20日後 | 1回、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計2回以内 | 果房浸漬 | 1回、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計2回以内 |
| ぶどう (高尾) (ふくしずく) | | ジベレリン 50~100ppm | 満開時~満開7日後 | 合計2回以内 | 花房又は果房浸漬 | | |
| ぶどう (あづましずく) | | 第1回目 ジベレリン 25~50ppm 第2回目 ジベレリン 50ppm | 満開時(第1回目) 満開4~13日後 (第2回目) | 2回以内、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計4回以内 | 果房浸漬 | 2回以内、 但し降雨等により再処理を行う場合は 合計4回以内 | |
| かんきつ(苗木、 ただし、温州み かんを除く) | 花芽抑制による樹勢の維持 | ジベレリン 25~50ppm | 50~250 L/10a | 12~3月 | 1回 | 立木全面散布 又は枝別散布 | 1回 |
| かんきつ(不知火、 ぽんかん、かぼす、 はるみ、リントンネーブル、 日向夏、すだち、 平兵衛酢、長門ユズ 柑(無核)、温州みかん、 きんかんを除く) | | | | 収穫直後~ 収穫約1ヶ月後 | | | |
| | 落果防止 | | 50~100 L/10a | 開花始め~ 満開10日後 | | 散布 | |

【ジベレリン協和錠剤】

| 作物名 | 使用目的 | 使用濃度 | 使用液量 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 使用方法 | ジベレリンを含む農薬の総使用回数 |
|---------------|--------------|---------------------|------------------|---------------------------|--|---|------------------|
| 不知火はるみ | 花芽抑制による樹勢の維持 | ジベレリン 25～50ppm | 50～250 L/10a | 収穫直後～ 収穫約1ヶ月後 | 1回 | 立木全面散布 又は枝別散布 | 3回以内 |
| | | ジベレリン 2.5ppm | 200～700 L/10a | 収穫後～3月 | | 立木全面散布 又は枝別散布 (マシン油乳剤 60～80 倍液に加用) | |
| | 落果防止 | ジベレリン 25～50ppm | 50～100 L/10a | 開花始め～ 満開10日後 | | 散布 | |
| | 水腐れ軽減 | ジベレリン 0.5～1ppm | 50～500 L/10a | 着色終期 但し、収穫7日前まで | | 果実散布 | |
| ぼんかん | 花芽抑制による樹勢の維持 | ジベレリン 25～50ppm | 50～250 L/10a | 収穫直後～ 収穫約1ヶ月後 | 立木全面散布 又は枝別散布 | 1回 | 1回 |
| | 落果防止 | | 50～100 L/10a | 開花始め～ 満開10日後 | 散布 | | |
| | 水腐れ軽減 | ジベレリン 0.5ppm | 50～500 L/10a | 着色始期～4分着色期 但し、収穫21日前まで | 果実散布 | | |
| 長門ユズキ (無核) | 花芽抑制による樹勢の維持 | ジベレリン 25～50ppm | 50～250 L/10a | 収穫直後～ 収穫約1ヶ月後 | 立木全面散布 又は枝別散布 | 1回 | 1回 |
| | 落果防止 | | 50～100 L/10a | 開花始め～ 満開10日後 | 散布 | | |
| | 着果安定 | ジベレリン 50ppm | | 開花期～開花終期 | 花又は果実散布 | | |
| | 果皮の 緑色維持 | ジベレリン 10～25ppm | 50～400 L/10a | 収穫予定 14～30日前 | 果実散布 | | |
| すだち | 花芽抑制による樹勢の維持 | ジベレリン 25～50ppm | 50～250 L/10a | 収穫直後～ 収穫約1ヶ月後 | 立木全面散布 又は枝別散布 | 1回 | 1回 |
| | 落果防止 | | 50～100 L/10a | 開花始め～満開10日 後 | 散布 | | |
| | 果皮の 緑色維持 | ジベレリン 5～25ppm | 50～400 L/10a | 収穫予定 7～30日前 | 果実散布 | | |
| 平兵衛酢 かぼす | 花芽抑制による樹勢の維持 | ジベレリン 25～50ppm | 50～250 L/10a | 収穫直後～ 収穫約1ヶ月後 | 立木全面散布 又は枝別散布 | 1回 | 1回 |
| | 落果防止 | | 50～100 L/10a | 開花始め～満開10日 後 | 散布 | | |
| | 果皮の 緑色維持 | ジベレリン 10～25ppm | 50～400 L/10a | 収穫予定 14～30日前 | 果実散布 | | |
| ワシントンネーブル | 花芽抑制による樹勢の維持 | ジベレリン 25～50ppm | 50～250 L/10a | 、収穫直後～ 収穫約1ヶ月後 | 立木全面散布 又は枝別散布 | 1回 | 1回 |
| | 落果防止 | ジベレリン 500ppm | 30～40 L/10a | 満開10～20日後の 幼果期 | 幼果に散布 | | |
| 日向夏 | 花芽抑制による樹勢の維持 | ジベレリン 25～50ppm | 50～250 L/10a | 収穫直後～ 収穫約1ヶ月後 | 立木全面散布 又は枝別散布 | 1回 | 1回 |
| | 無種子化 落果防止 | ジベレリン 300～500ppm | 30～40 L/10a | 満開 7～10日後 | 果実散布 | | |
| 温州みかん (苗木) | 花芽抑制による樹勢の維持 | ジベレリン 25～50ppm | 50～250 L/10a | 11～1月 | 立木全面散布 又は枝別散布 | 1回 | 1回 |
| | | ジベレリン 10ppm | | | 立木全面散布又は 枝別散布(プロヒドロ ジャスモン 1000～ 2000 倍液に加用) | | |
| | | ジベレリン 2.5ppm | 200～700 L/10a | | 立木全面散布 又は枝別散布 (マシン油乳剤 60～80 倍液に加用) | | |

【ジベレリン協和錠剤】

| 作物名 | 使用目的 | 使用濃度 | 使用液量 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 使用方法 | ジベレリンを含む農薬の総使用回数 |
|-------------------------------|--------------------------|--|-----------------------------|--|----------------|---|--|
| 温州みかん | 花芽抑制による樹勢の維持 | ジベレリン 25～50ppm | 50～250 L/10a | 収穫直後～ 収穫約1ヶ月後 | 1回 | 立木全面散布 又は枝別散布 | 3回以内 |
| | | ジベレリン 10ppm | | | | 立木全面散布又は 枝別散布(プロヒドロ ジャスモン 1000～ 2000 倍液に加用) | |
| | | ジベレリン 2.5ppm | 200～700 L/10a | 11～1月 但し、収穫後 | | 立木全面散布 又は枝別散布 (マシン油乳剤 60～80 倍液に加用) | |
| | 落果防止 | ジベレリン 10ppm | 50～100 L/10a | 開花始め～ 満開 10 日後 | | 散布(プロヒドロジャ スモン 1000～2000 倍 液に加用) | |
| | | ジベレリン 25～50ppm | | | | 散布 | |
| 浮皮軽減 | ジベレリン 1～5ppm | 100～400 L/10a | 収穫予定日の3ヶ月前 但し、収穫 45 日前まで | 果実散布(プロヒドロ ジャスモン 1000～ 2000 倍液に加用) | | | |
| きんかん | 花芽抑制による樹勢の維持 | ジベレリン 25～50ppm | 50～250 L/10a | 収穫直後～ 収穫約1ヶ月後 | 2回 | 立木全面散布 又は枝別散布 | 1回 |
| | 落果防止 | | | 開花始め～満開 10 日後 | | 散布 | |
| | 着果安定 | ジベレリン 300ppm | 30～60 L/10a | 一番花開花期 | | 花に散布 | |
| びわ (3 倍体) | 着果安定 果実肥大促進 | 第 1 回目 ジベレリン 200ppm 第 2 回目 ジベレリン 200ppm | — | 満開予定日約 7 日前～ 満開時(第 1 回目)及び 第 1 回目処理後 35～60 日(第 2 回目) | 2回 | ホルクロルフェニユロン 20ppm 液に加用 第 1 回目：花房浸漬 第 2 回目：果房浸漬 | 2回 |
| すもも(貴陽) | 着果安定 | ジベレリン 100～200ppm | 20～50 L/10a | 満開 20～30 日後 (第 1 回目) 満開 50～60 日後 (第 2 回目) | | 果実散布 | |
| アセロラ | 着粒安定 | ジベレリン 25ppm | 100～400 L/10a | 開花期 | 1 花当り 1 回 | 花に散布 | 1 花そう当り 3 回以内 |
| 野菜類 | 発芽促進 | ジベレリン 50～200ppm | — | は種前 | 1 回 | 種子浸漬 | 1 回 |
| いちご (促成栽培) | 着果数増加 熟期促進 | ジベレリン 10ppm | 1 株当り 5 mL | 休眠に入る直前 (冬場の低温期) | 1 株当り 6 回以内 | 茎葉全面散布 | 1 株当り 10 回以内 |
| いちご | 果柄の 伸長促進 | | | 頂花の出蕾直後～ 開花直前 | 1 花房当り 1 回 | 株の中心部に散布 | |
| いちご (親株床) | ランナー発生促進 | ジベレリン 50ppm | 1 株当り 10 mL | 採苗時 ランナー発生直前 ～発生初期 | 1 株当り 1 回 | 茎葉散布 | 1 株当り 1 回 |
| 畑わさび | 花茎の抽出 時期促進及び 発生量増加 | 第 1 回目 ジベレリン 100ppm 第 2 回目 ジベレリン 100ppm | 1 株当り 2 mL | 花芽分化後の 10 月下旬 (第 1 回目)及び 第 1 回目処理後 約 10 日後の 11 月上旬 (第 2 回目) 但し、収穫 60 日前まで | 2 回 | 株の中心部に散布 | 3 回以内 (種子への処理 は 1 回以内、 は種後は 2 回以内) |
| さやいんげん (矮性(促成又は 半促成栽培)) | 節間伸長促進 | ジベレリン 5ppm | 1 株当り 2mL | 本葉 0.5～1.5 枚 展開時 | 2 回以内 | 茎頂部散布 | 3 回以内 (種子への処理 は 1 回以内、 は種後は 2 回以内) |
| しそ (花穂) | 穂の伸長促進 花径の 伸長促進 | | 50L/10a | 出穂期 但し、収穫 5 日前まで | | 茎葉散布 | |

【ジベレリン協和錠剤】

| 作物名 | 使用目的 | 使用濃度 | 使用液量 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 使用方法 | ジベレリンを含む農薬の総使用回数 |
|----------------------|-----------------------|---------------------|-----------------|---|------------|--------------------------|--|
| メロン | 着果促進 | ジベレリン 200ppm | 1花当り 2~5 mL | 開花前日~翌日 | 1花当り 1回 | 散布 (4-CPA 剤 50 倍液に加用) | 種子への 処理は1回、 1花当り1回 |
| みつば (軟化栽培 を除く) | 生育促進 | ジベレリン 10ppm | 50~100 L/10a | 本葉2~3枚時 (第1回目)と その2週間後(第2回目) 但し、収穫14日前まで | 2回 | 葉面散布 | 3回以内 (種子への処理 は1回以内、 は種後は 2回以内) |
| みつば (軟化栽培) | | ジベレリン 20~50ppm | 50~100 L/10a | 根株伏込時 | 1回 | 根株上面に散布 | 2回以内 (種子への処理 は1回以内、 根株伏込時は 1回以内) |
| 種いも用 ばれいしょ | 全粒種いもの増収 | ジベレリン 5~10ppm | — | 植付前 | | | 30秒間 種いも浸漬 |
| きく | 開花促進 草丈伸長促進 | ジベレリン 25~100ppm | 50~100 L/10a | 生育期 | 2回以内 | 茎葉散布 | 2回以内 |
| ソリダゴ | 生育促進 | ジベレリン 25ppm | 1株当り 1mL | 活着直後又は萌芽期 | 1回 | 茎葉散布 | 1回 |
| カラー | | ジベレリン 50ppm | — | 植付時 | | 球根浸漬 | 2回以内 |
| | | | 50~150 L/10a | 花茎伸長期 | | 茎葉散布 | |
| スパティフィラム | 開花促進 | ジベレリン 250~500ppm | 30~40 L/10a | 出荷予定期の 2~3ヶ月前 | | | 1回 |
| トルコギキョウ | 生育促進 | ジベレリン 50~100ppm | 30~40 L/10a | 生育期間中に ゼット化した時 | 1回 | 茎葉散布 | 1回 |
| アイリス | | | | 植付時 | | 球根浸漬 | |
| 花き類 | 発芽促進 | ジベレリン 50~200ppm | — | は種前 | | 種子浸漬 | |
| アザレア | 開花促進 | ジベレリン 250~500ppm | 30~40 L/10a | 開花予定日 約1ヶ月前 | | 茎葉散布 | |
| さつき (施設栽培苗) | 茎の伸長促進 花芽分化の 抑制 | ジベレリン 100~200ppm | 50~100 L/10a | 茎の伸長初期~ 伸長終期 (開花盛期以降) 1~2週間間隔 | 3回 | 頂芽に十分散布 | 3回以内 |
| さくら (切り枝促成栽培) | 休眠打破に よる生育促進 | ジベレリン 25~50ppm | 50~200 L/10a | 休眠期 | 1回 | 切り枝全面散布 | 1回 |
| | | | — | | | 切り枝浸漬 | |

【ジベレリン協和錠剤】

使用上の注意事項

〔1〕薬液の調製及び取扱上の注意

- (1) 本製剤は表の如く所定の水にうすめれば希望の水溶液を作ることが出来る。ただし、一時に全量の水に溶かすことなく、まず少量の水に溶かしたのちに希釈する。

錠剤1錠（ジベレリン25mg）当り水量

| ジベレリン 濃度(ppm) | 10 ppm | 12.5 ppm | 25 ppm | 50 ppm | 75 ppm | 100 ppm | 200 ppm | 300 ppm | 500 ppm |
|------------------|-----------|-------------|-----------|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 水量(L) | 2.5 L | 2 L | 1 L | 0.5 L | 0.333 L | 0.25 L | 0.125 L | 0.083 L | 0.05 L |

錠剤8錠（ジベレリン200mg）当り水量

| ジベレリン 濃度(ppm) | 10 ppm | 12.5 ppm | 25 ppm | 50 ppm | 75 ppm | 100 ppm | 200 ppm | 300 ppm | 500 ppm |
|------------------|-----------|-------------|-----------|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 水量(L) | 20 L | 16 L | 8 L | 4 L | 2.667 L | 2 L | 1 L | 0.667 L | 0.4 L |

- (2) 使用にあたってはその都度溶解調製することが望ましい。溶解後放置すると効力が低下する場合がありますので、なるべく調製当日に使い切ることを。
- (3) 本剤の使用にあたっては、使用濃度、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所など関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (4) ボルドー液などアルカリ性の強い薬剤との混用は避けること。

〔2〕使用上の注意

(1) ぶどう

- ① ぶどうに関する作物名中の品種による区分は、ジベレリンに対するぶどうの反応性の違いを考慮した区分なので、ぶどうの品種がどの区分（品種群）に該当するか、病害虫防除所等関係機関に確認してから使用すること。
- ② 下記③の「ぶどうの品種による区分」に記載のない品種に対して本剤を初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるか、自ら事前に薬効及び薬害を確認した上で使用すること。
- ③ ぶどうの品種による区分
- イ. 2倍体米国系品種
「マスカット・ベリーA」「アーリースチューベン（バッファロー）」「旅路（紅塩谷）」
 - ロ. 2倍体欧州系品種
「ロザリオ ピアンコ」「ロザキ」「瀬戸ジャイアンツ」「マリオ」「アリサ」「イタリア」「紫苑」「ルーベルマスカット」「ロザリオ ロッソ」「シャインマスカット」
 - ハ. 3倍体品種
「サマーブラック」「美嶺」「ナガノパープル」「キングデラ」「ハニーシードレス」「BK シードレス」
 - ニ. 巨峰系4倍体品種
「巨峰」「ピオーネ」「安芸クイーン」「翠峰」「サニールージュ」「藤稔」「高妻」「白峰」「ゴルビー」「多摩ゆたか」「紫玉」「黒王」「紅義」「シナノスマイル」「ハイベリー」「オーロラブラック」
（「あづましずく」「ふくしずく」等の巨峰系4倍体シードレス品種は該当しない）
- ④ 降雨や、異常乾燥（フェーン現象等による異常乾燥）の心配の無い日を選んで処理すること。
- ⑤ 処理後の天候急変（降雨、異常乾燥）で本剤の吸収が不十分になるおそれがある場合には、ジベレリンを含む農薬の総使用回数の範囲内で再処理を行うことができる。なお、再処理に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。

【ジベレリン協和錠剤】

- ⑥ 本剤は樹勢の弱い樹や登熟の悪い枝等に対しては、効果が不十分なので使用を避けること。樹勢がやや強めの方が安定した効果が得られるが、極端に樹勢が強い場合はかえって効果が出にくいので樹勢の管理には十分気をつけること。栽培管理については、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- ⑦ 本剤の使用により、着粒が安定するとともに果粒の肥大が促進されるので、着粒過多（過密着）による裂果発生のおそれがある。また、果梗が硬化し脱粒しやすくなるので、裂果や脱粒を未然に防ぐため、開花前の整房や着粒後の摘粒等の栽培管理を適切に行うこと。栽培管理については、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- ⑧ 使用時期や使用濃度を誤ると、花振り、着粒過多（過密着）、有核果混入等のおそれがあるので、使用時期、使用濃度は厳守すること。
- ⑨ 無種子化を目的とした着粒前の処理の際は、特に丁寧に処理することを心がけ、薬液が花蕾全体に十分いきわたるよう注意すること。
- ⑩ 果粒肥大促進を目的とした着粒後の処理の際は、薬液が付きすぎないように、処理後ぶどうの枝やぶどう棚の針金を軽く振って余分な薬液を落とすこと。
- ⑪ 本剤をぶどう（2倍体米国系品種）に無種子化・果粒肥大促進の目的で使用する場合、第2回目処理を浸漬で行うときは100ppmで処理すること。また、第2回目処理を散布で行うときは75～100ppm（80～100L/10a）で処理する。散布で行う場合、散布処理は浸漬処理に比べ果粒肥大がやや劣ることがあるので、健全な樹に対して行い、薬液が果房に十分かかるように注意すること。
- ⑫ 本剤とストレプトマイシン剤を併用することで無核果率の向上を図ることができる。使用に当たっては、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。また、ストレプトマイシン剤の使用上の注意事項を厳守すること。
- ⑬ 本剤をぶどう（デラウェア）〔無核栽培〕で使用する場合、満開予定日約14日前よりも早く処理するときは、花振りすることがあるのでホルクロルフェニユロン剤を加用すること。また、ホルクロルフェニユロン剤を加用して処理する際は、ホルクロルフェニユロン剤の使用上の注意事項を厳守すること。
- ⑭ 本剤をぶどうの果房伸長促進の目的で使用する場合は、必ず花房だけを目がけて花房全体が十分濡れる程度に部分散布する。
この時期に誤って大量の薬液が枝や葉にかかること、その翌年に発芽不良などの新梢の生育障害が起こるおそれがあるので、動力噴霧機やスピードスプレーヤなどによる全面散布は行わないこと。
- ⑮ ぶどう（あづましずく）に使用する場合、満開4～13日後の1回処理で十分な効果が得られるが、栽培方法や樹勢等によっては満開時と満開4～13日後の2回処理する必要があるため、使用に当たっては病虫害防除所等関係機関の指導を受けること。
- ⑯ ぶどう（巨峰、ルビーロマン、ハニービーナス）〔有核栽培〕に果粒肥大促進の目的で使用する場合は、早めの処理により無核化率が増加する傾向があるので、有核粒の結実を確認してから処理する。

(2) かんきつ

<落果防止>

- ① 本剤処理により生理落果が軽減され着果が安定するが、品種等により本剤に対する感受性が異なるので、初めての品種等に使用する場合は最寄りの指導機関の指導を仰ぐか自ら事前に薬効薬害を確認した上で使用すること。
- ② 果面の粗滑や果皮の厚さ等果実品質への影響が懸念される場合があるので、使用時期、濃度は守ること。

<花芽抑制による樹勢の維持>

- ① 衰弱した樹勢のものに使用しても期待した効果が得られない場合があるので、衰弱した樹には使用しないこと。
- ② 低温が続いた年（極端な低温の年）または花芽の減少が予測される裏年の場合は、遅い時期の低濃度処理を心がけること。
- ③ 散布の際は薬液が葉先からしずくとなり落下する程度に散布すること。

(3) 不知火・はるみ

<花芽抑制による樹勢の維持>

- ① ジベレリンの使用濃度を2.5ppmで使用するときは、マシン油乳剤60～80倍液に加用する。
- ② マシン油乳剤はジベレリンに加用の登録のある剤を使用し、マシン油乳剤の注意書きを確認のうえ、使

【ジベレリン協和錠剤】

用すること。

(4) 温州みかん

＜花芽抑制による樹勢の維持＞

①ジベレリンの使用濃度を2.5ppmで使用するとき、マシン油乳剤60～80倍液に加用する。

②マシン油乳剤はジベレリンに加用の登録のある剤を使用し、マシン油乳剤の注意書きを確認のうえ、使用すること。

＜浮皮軽減＞

①本剤の処理により、着色が遅延することがあるため、貯蔵期間によって使用濃度を調整すること。

使用濃度の目安

・貯蔵用または樹上完熟の温州みかんでは、概ね3.3～5ppm

・貯蔵しないあるいは貯蔵期間が短い温州みかんでは、概ね1～3.3ppm

②本剤処理により薬斑が残ることがあるため、使用に当っては病害虫防除所等関係機関の指導を受けけることが望ましい。

(5) ワシントンネーブルの落果防止の目的で使用する場合は次の点に注意すること。

①異常に結果歩合の低いものは処理しても効果の上がないことがある。

②通常幼果1果当り小型噴霧器で0.1～0.2mL程度を噴霧する。

(6) 長門ユズキチ（無核）

長門ユズキチの落果防止および着果安定の目的で使用する場合は、薬液が花または幼果から滴り落ちる程度に散布すること。

(7) 日向夏

日向夏の無種子化および落果防止の目的で使用する場合は、薬液が花または幼果から滴り落ちる程度に散布すること。

(8) びわ（3倍体）

①本剤処理しないとすべて落果するので必ず処理すること。

②樹勢が弱いと果実肥大等の効果が出にくい場合があるので、樹勢は強めに維持すること。2回目処理時に1果そうに数果残しておき、果形の良否が判断できる時期に品質の良い果実を残して摘果し、適正着果量をこころがけること。

③第1回目の使用時期が早すぎると果梗部のネックが発生しやすく、第2回目の使用時期が遅すぎたり、使用濃度が高い場合は果面の緑斑が残りやすい傾向があるので、使用時期、使用濃度を守ること。

(9) すもも（貴陽）

①授粉を行ってから、散布すること。

②薬液が付きすぎないように、処理後、枝や棚の針金を軽く振って余分な薬液を落とすこと。

③第1回目の処理が早すぎると棘状の枝の発生が見られ、遅すぎると着果安定効果が劣る傾向があるので、所定の使用時期に使用すること。

④本剤の散布により結実が過多となった場合は、果実が小さくなる傾向があるので、予備摘果と仕上げ摘果を行い着果量を調節すること。

(10) みつば（軟化栽培を除く）

葉の表裏に十分散布すること。高温長日条件下の散布は抽苔しやすくなるので、秋作を中心に処理した方がよい。

(11) みつば（軟化栽培）

灌水は処理の当日はさけ、翌日に行うこと。散布により発生茎数が多くなるので根株の伏込みは心持ち加減すること。

(12) いちご

＜着果数増加・熟期促進＞

①処理したいちごの果柄がのび、花、果実が葉の上に出た頃寒波がくると特に寒害を受け易いので防寒に留意すること。

②本剤の散布適期は休眠に突入して矮化が始まる直前であり、休眠に入ってからでは効果が期待できないので、時期を失わないよう、いちごの生育状況に応じて散布時期を決めること。

又、第1回目処理後、生育状況をみながら必要に応じて追加処理をすること。

③過剰散布は根の発育抑制やくず果を増加させるので、使用濃度、散布液量を厳守すること。

【ジベレリン協和錠剤】

<果柄の伸長促進>

処理したいちごの果柄がのび、花、果実が葉の上に出た頃寒波がくると特に寒害を受け易いので防寒に留意すること。

(13) 畑わさび

- ①花芽分化前に処理しても効果が出にくいので、花芽分化開始を確認してから処理すること。
- ②全面散布は効果が劣るので株の中心部に散布し、効果を高めるため必ず2回処理すること。気温が5℃以下では効果が劣るので11月上旬からビニール等で被覆し、保温管理すること。また、15℃以上になると花芽分化が抑制されるので、15℃以上にならないよう温度管理には十分注意すること。

(14) 種いも用ばれいしょ

- ①本剤は種いも生産用として原採種圃に植え付ける種いもに用いるものである。
- ②種いも切断後の処理は薬害を生じるおそれがあるので避け、必ず種いもを切断せずに処理する。
- ③浸漬時間が長くなったり、高濃度液に浸漬すると薬害を生じるおそれがあるので所定の浸漬時間及び使用濃度を厳守する。
- ④薬剤処理した種いもは長時間ぬれたままにしておくと発芽遅延等の薬害を生じるので、風通しのよい場所ですみやかに乾燥させる。
- ⑤種いもを切断する場合は処理した薬液が十分乾いてから行う。
- ⑥薬剤処理した種いも及びその収穫物は食料又は飼料には使用しない。
- ⑦品種により本剤に対する感受性が異なるので、下記に記載する品種以外に対して本剤を初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるか、自ら事前に薬効及び薬害を確認した上で使用すること。
「ホッカイコガネ、男爵薯、トヨシロ、十勝こがね」

(15) 花き

- ①処理濃度、量、回数は必要最小限にとどめ、徒長や軟弱化を防ぐため栽培管理に十分注意すること。
- ②処理の際には花蕾のある中心部めがけて噴霧すること。
- ③ソリダゴ
イ. 高温期の処理では効果を示さないので、低温期（11～3月頃）に処理すること。
ロ. 処理により草丈および切り花重がやや低下することがある。
- ④さつき
さつきの未開花苗に使用する場合は、茎の伸長状況を見ながら対象品種の成木の開花時期を参考にして、使用時期を決めること。
- ⑤さくら（切り枝促成栽培）
休眠が深い時期の処理は効果が出にくいので、自発休眠の浅い時期に処理すること。

- [3] 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。